

東藥會報

東京市東區下谷三丁目一丁目
昭和三年四月廿七日發行
第四千七百三十三號
印刷所 東京市東區下谷三丁目一丁目
發行所 東京市東區下谷三丁目一丁目

新入生に與ふるの辭

校長 池口慶三

七百有餘の入學志願者中より
淘汰選拔せられたる百七十餘名の
諸君を本校に迎ふることは、私
としても甚だよろこばしい次第
である。諸君はそれぞれ目的を
持ち抱負をいだいて本校に入學
されたのであらうから、入學の
許可された今日からは充分腕を
のばしてその依つて以て希望せ
られたものに向つて進んでい
たいと思ふ。そもも本校
は専門學校であり、諸君も早何
事をもわきまへらるゝ青年であ
るから、私の方針としては勉學
に於て最も自由を尊重したいの
である。然し往々自由と我儘と
をはきかへる人を見るが、實
際自由と我儘とは似而非なる事
甚だしいものである。故に私は
諸君の勉學に於て其の自由の意
味をまちがへる事なく、願はく
はそれが秩序あり且つ義務の觀
念の伴ふものでありたいと思つ
てゐる次第である。

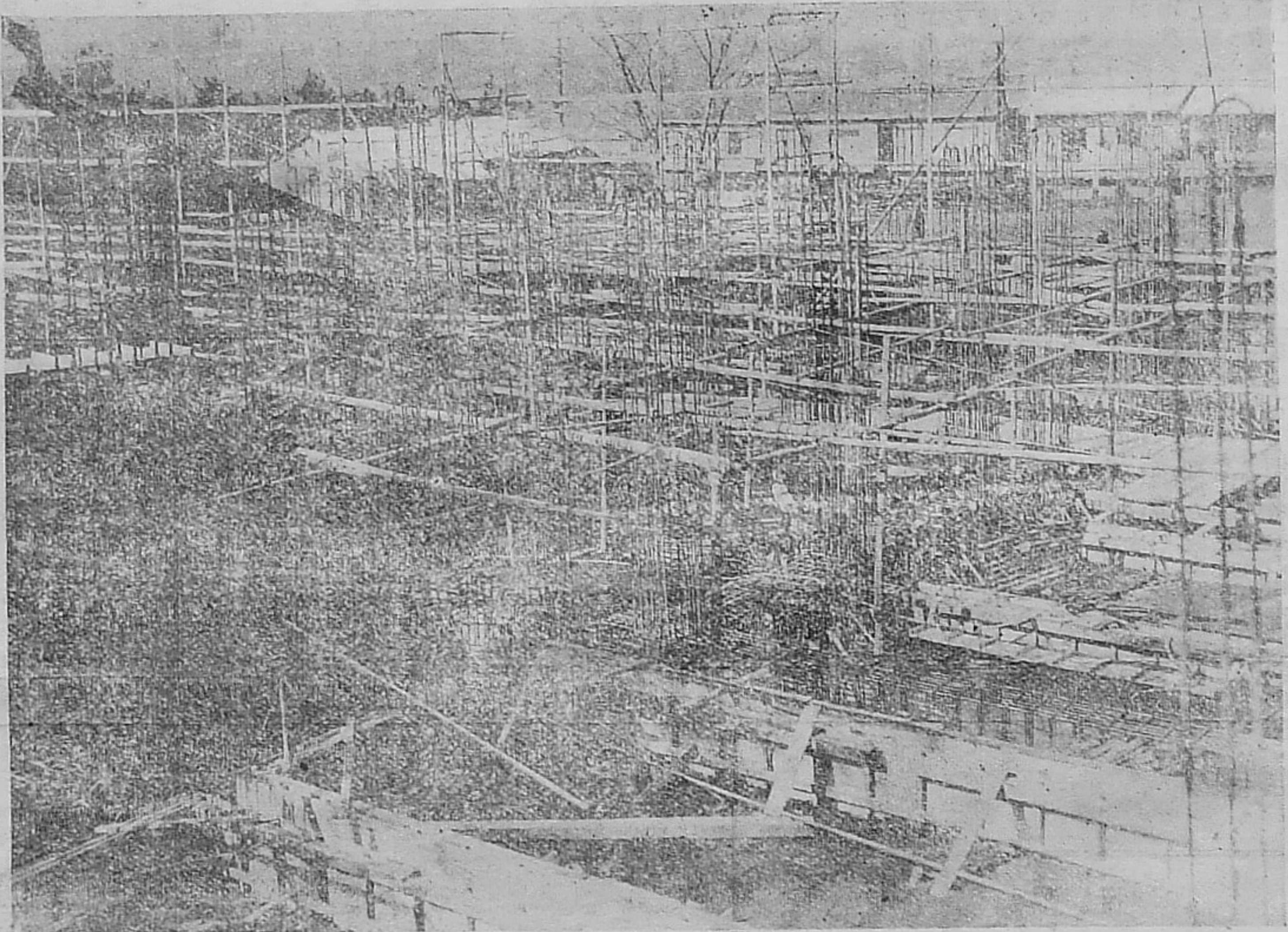
この義務としては、校則の第
六條である生徒心得を充分守つ
ていただきたい。即ち
一、智徳ヲ洋瀛ニシテ身體ヲ健全
ニシ立身報國ノ基ヲ健ツベ
キ事
二、校則ヲ遵守シ師長ヲ敬重
シ學友ヲ信愛スベキ事
三、廉恥ヲ勵ミ志操ヲ固クシ
苟モ浮薄ノ行爲アルベカラ
ザル事
四、禮讓ヲ重シ威儀ヲ正シ
クシ苟モ傲慢ノ舉動アルベ
カラザル事

五、協和輯睦ヲ旨トシ純良ナ
ル校風ヲ發揚スベキ事
以上の五條である。これら一見
平凡な事柄ではあるが、この生
徒心得を諸君が躬を以て遵守せ
られん事を切望する者である。
諸君は平常新聞、雜誌、或ひ
は親しく人口より醫藥分業なる
事を見聞せられる事と思ふが、
これは醫師が診療に従事しその
つくる處方箋によつて藥劑師が
調劑するの事をいふのである。
その藥學を製造するが藥學であり、
藥劑師たる者も徒らに醫師との
み相せめぐ事をせず、藥品の需
要者である一般大衆の信任を得
るようつとめなければならぬ。

これに關しては世上種々の議
論もあるが、私としては藥劑師
は先づその人格を向上しなければ
ならぬと信じてゐるのである。
人格を向上し世間大衆が安んじ
て藥劑師に調劑を委せられるに
至れば、醫藥分業なる事も自ら
氷解する事は火を見るより明ら
かな事實である。而して私はこ
の人格の向上に資するには第一
に義務の觀念を以てすべきであ
ることを諸君に進言したいので
ある。

新校舍もすでに基礎工事の竣
工した今日、入學せられた諸君
の前途は實にかがやかしいもの
のであるから。

大膽な努力に依て善果を收むる
事が出来建設へと一路邁進する
に至つた事は同様に堪へない次
第である。が然し再三申上げた
様に茲に憂慮に堪へない問題が
残されて居るのである。と云ふ
のはすなはち募集した前門の虎
追ふ事が出来たが償還と云ふ
後門の狼は掌を返すが如く迫
つて來たのである。之が償還の
財源は如何にして出すかと云ふ



新校舍東北隅より見たる配筋

校舎建築彙報

再び寄附金に就て

前月基礎工事を完了した新校舎
は地下階の鐵筋を組立てた上更
に假柱全部の取付けを終つて二
十日よりコンクリートを流し込
みつゝあるから地下階の完成も
日ならずして落成することであ
る。武蔵野のおもかげの濃く残
る中野のあたりを散策せらるゝ
諸氏は、東中野驛から二丁程の
處に日毎形の整つて行く新校舎
にも一瞥を與へられたい。滾々
として一時間に三十石の水を出
す數百尺の井戸も既に開鑿せら
れた程に、工事は進捗してゐる
のであるから。

校舎改築の雄圖は計劃を立てら
れた丹波先生の薨去の後には現校
長池口先生に依て最も力強く踏
み進められ一度危まれた校債も先
生が成されれば止まぬと云ふ絶
望の境に陥る事は當然の歸趨で
あり、遂に校務の改善、内容の
充實、學問の研究、出身者の希
望等、學校として成し得ない事
は多々有るが一だもなし得ないや
うな事になる。此の重大な危機
を脱するにはどうしても校友諸
氏の後援に待たなければならぬ
い。故に諸氏は一大勇猛心を起
して境遇の如何や、過去の行懸
や、一二教職員に對する感情等
の總てを抛ち貧富や強弱や老若
を問はず東藥と云ふ傳統的精神
のもとに藥學の華を永遠に光輝
あらしむる爲、多寡の如何を云
はず恰も佛教徒がその高くかか
けられた法燈のもとに喜悅の涙
とともに淨財を寄進するの態度
にならひ、近く武蔵野原頭にそ
の雄姿を顯はさんとする學の殿
堂の建設の爲砂利一握なりとも
將又釘一本なりとも互の赤心誠
意を打込んで寄附せられん事を
切に希望する者である。

愛知縣東藥會支部會

一、既に寄附申込をして拂込
金を完了せざる向より受く可
き殘金
二、未寄附者の新に申込を得
て受く可き金額
一、學校經常費の緊縮節約に
依て生むべき學校の剩餘金

昨春愛東會の名に於て第一回の
會合を催ふし各自堅固なる結束
を作り其の意を強ふした本會は
第二回目の會合を四月八日市内
中區矢野町八幡樓に於て盛大に
舉行する事と成つた尤も當縣下
に於ては出身者少數なると土地
の比較的廣範なるとにより出席
者少數なりしは遺憾で有るが各
自の熱情と親睦とは決して他に
劣る者では無い開會旁頭支部長
に宮木氏副支部長に田中氏を推
し幹事は最も親善と連絡を圖る
爲各自持廻りにする事其の他會
則等を議し宴に移り名古屋一流
の美女は舞臺大に勤め宴前にし
て宮木田中諸氏の隱微等出で和
氣瀟々の内に散會した。

會員異動

太田 源次 東京市下谷區入谷町三八二(榮平方)
石橋 三郎 東京市下谷區入谷町三八二(榮平方)
高山 賢太郎 東京市下谷區入谷町三八二(榮平方)
沼崎 太郎 千葉縣南葛飾郡八幡町菅野二〇〇
石橋 義一 千葉縣南葛飾郡八幡町菅野二〇〇
大塚 喜久雄 (番地改正)市外龜戸町二一五二
柏谷 幸一 府下南葛飾郡金町一六二五(金町藥局方)
桐橋 幸一 市外砂町字本砂町一一五八
永田 源四郎 市外寺島町九六一
小森 俊文 京都市下京區松原町千本東第一製藥分工場
藤原 保雄 府下南葛飾郡龜戸村(金町藥局支局)
鈴木 清太郎 市外南千住三ノ輪第二製藥分工場(ウロコ藥局)
今井 司馬 大阪市天王寺町五五〇(番地改正)
高瀬 定吉 横濱市鶴見區市馬場一七五〇
細川 忠三 市外南品川町五五五〇(同)
飯田 三三郎 市外南品川町五五五〇(同)
船橋 三三郎 市外南品川町五五五〇(同)
野本 秀信 市外南品川町五五五〇(同)
大塚 四郎 市外中谷町山二九

謹告

拜啓陽春の候益々御清榮泰賀陳者先般來各位の深厚なる
御援助に依り起工仕候東京藥學專門學校新築工事は以御陰
着々進捗し既に地下階の完成を遂げ今秋十月には竣工可致
洵に御同慶の至に不堪候然るに工事の進捗に伴ひ工事費其
他諸般の支拂上資金の必要愈々切實に相成候に就ては時節
柄誠に乍御迷惑何卒事情御諒察の上至急應分の御寄附被成
下度茲に懇願仕候

東京藥學專門學校校長
池口慶三

古教科書取つ ぎに就いて

新學年の頭初にあたり授業料、
書籍費等を一時に支出するのは
大變に金額もかさむ故、當編輯
部は古教科書の取つぎをして各
學年諸氏の負擔をすこしなりと
も軽減しようと思論んでゐる。
故に上級生諸氏の中不要教科書
を所持の向はその書名、希望買
價及び自己の氏名を委員にまで
御知らせありたい。又下級生諸
氏にしてかくの如くにして教科
書を手せんと思ふ向は、亦
其の書名及び自己の氏名を御知
らせを乞ふ。各々適當な條件の
あり次第需要供給を圓滑に取扱
はる様にする。

松山源二郎君 醫の資格も備へられ芝田村町で醫院を經營されて居られます
鈴木清吉君 横濱山下町開局
小山春造君 郷里埼玉で村の收入役をやつて居られます
櫻井熊之進君 日暮里谷中本で病後を静養中
大林榮次郎君 新宿の兄君の許に居られます
松本錫次郎君 駒込病院藥局長で活躍中ですが未だに御子様がなとの事

○彌生會春季懇談會

四月四日、夜來の雨は全く晴れて一青天空となり暑からず寒からず吹く春風も心地よき彌生日和——我等は之を恵まれたる彌生會日和といふ。上野の櫻は三分咲きたりとの便りも嬉しく花に誘はれて會場根岸の笹の雪に集まるもの

星名謙輝、長坂良一、内田清、内田兼一、小林昭、佐藤孝吉、高瀬定吉(横濱)、平田浩(浦和)の八名互の挨拶も學生氣分に返りて簡単に席定まるや幹事會務諸般の報告をなし次で茨城縣結城町の梅原馨君今秋の本會記念大會に参加せる旨の披露あり一

同拍手之を迎ふ尙十五周年大會實行方法に付準備打合せを爲すところあり、更に東藥會寄附實行委員より母校移轉建築進捗の件、寄附金の現状、あかち銀行据置寄附金の始末等に付詳細の報告あり併せて去月母校に於ける實行委員會の席上にて校長より寄附依頼ありたる旨を詳述し一同も之を諒解せり、其の他會員より有志旅行會の臨時提案あり協議の結果今秋九月の頃好適の地を選びて一泊清遊をなす事に決定其の方法は本部に任せ出席全員悉く賛成せり

(旅行希望の會員は本會本部へ申込ありし)

終つて宴會に移り懇談數刻一同歡を盡くして午後九時散會せり

○地方東藥會支部近況
群馬縣 四月一日前橋商工會議所に於て發會式を舉行せり詳細は次號掲載す

愛知縣 本號記事参照

栃木縣 既に成立して着々成果を收めつゝあり
新潟縣 未だ具体化せざるも本部發展の爲めとして金五十圓寄附せられた
廣島縣 三好慶吾氏より遠からず支部設立に盡力する旨通信あり
茨城縣 今下旬或は來月初旬發會式を舉行するとの事

○東影會々報

五月十八日金植物園實習室に於て市内スケッチ寫眞展覽會を開催致しますから舊て御出品下さい
出品印刷は五月十六日(水)迄に委員に御渡し下さい
委員(三年)小島、阿佐
同(二年)妹尾、土屋

三重縣 田中親助氏が主として幹事せられて將來を期待されてる
大阪府 同府は京都、兵庫の聯盟に依り近畿東藥會の名稱で成立するとの事

○東藥會事務室より
本會事務所は如何にも狹隘で取亂して有ります爲め先輩や校友諸兄の御訪問を得まして何等の風情を盡す事が出来ないのは遺憾であります之も過渡期の已むを得ないことと御察下さいまして博覽會の御序に是非御立寄を願ひます

御願ひ欄に就て 毎度御親切な御教示を下さいまして雖有思て居ります一々御伺ひするところですが事務の都合が許しませんが取敢へず紙上で御禮申上り會員就職に就て 御希望にも依りますから東藥會宛御一報を願ひます

投稿に就て 會員の御消息を知り度い事と校友の發展の爲に是非共御力を貸して下さる様願ひます

名簿に就て 今回で御願ひの欄も一段落を告げましたから整理の上遠からず發行する意氣込で居ります

會費に就て 市内外在住の會員は特別の集合機關でいつも御拂込を願ふ事が出来ませんが遠距離な地方は便宜な方法が有りませんから是非共振替用紙の御利用で御拂込を願ひます

ヒの部
日影 西雄 五日野宗久助 一三
日比野 謙次郎 三 檜原 辰雄 四
廣谷 信通 五 廣田 信一 四
平井 梅治 二 廣田 信一 四
平戸 博志 三 平川 三郎 三
平野 忠三 五 平野 喜太郎 三
平澤 隆三 五 平澤 有一郎 三
久道 三千藏 六 菱田 恒吉 三

モの部
茂木 近忠 五 森 啓治 五
森和泉 三 森 萬藏 五
森田 治郎 六 森川 榮 三
森山 茂 三 森野 庄藏 三
森島 錫太郎 四 森山 靜茂 三
森本 信一郎 四 盛田 源三郎 三
百瀬 久 四

セの部
瀬川 獨一郎 五 關 嘉之 五
關 義政 五 關 實一 五
關 義之助 五 關 久作 五
關 山永之助 五 關 時康 五

スの部
須藤 一男 五 菅沼 博 五
鋤田 末壽 三 杉田 敬一 五
杉田 慶二 三 杉田 武雄 五
杉野 雄二 三 杉浦 元之助 五
杉山 繁樹 三 杉谷 桐七 五
杉山 愛之助 五 杉本 福次郎 五
杉本 愛之助 五 杉田 五十吉 五
角谷 應助 五 最田 五 七
鈴木 榮吉 五 鈴木 豐吉 五
鈴木 初太郎 五 鈴木 角太郎 五
鈴木 潔 五 鈴木 重孟 五
鈴木 文吉 五 鈴木 重行 五
鈴木 利貞 五 鈴木 信之 五
鈴木 安次 五 鈴木 重定 五
鈴木 安次 五 鈴木 喜平次 五

ヒの部
日影 西雄 五日野宗久助 一三
日比野 謙次郎 三 檜原 辰雄 四
廣谷 信通 五 廣田 信一 四
平井 梅治 二 廣田 信一 四
平戸 博志 三 平川 三郎 三
平野 忠三 五 平野 喜太郎 三
平澤 隆三 五 平澤 有一郎 三
久道 三千藏 六 菱田 恒吉 三

モの部
茂木 近忠 五 森 啓治 五
森和泉 三 森 萬藏 五
森田 治郎 六 森川 榮 三
森山 茂 三 森野 庄藏 三
森島 錫太郎 四 森山 靜茂 三
森本 信一郎 四 盛田 源三郎 三
百瀬 久 四

セの部
瀬川 獨一郎 五 關 嘉之 五
關 義政 五 關 實一 五
關 義之助 五 關 久作 五
關 山永之助 五 關 時康 五

スの部
須藤 一男 五 菅沼 博 五
鋤田 末壽 三 杉田 敬一 五
杉田 慶二 三 杉田 武雄 五
杉野 雄二 三 杉浦 元之助 五
杉山 繁樹 三 杉谷 桐七 五
杉山 愛之助 五 杉本 福次郎 五
杉本 愛之助 五 杉田 五十吉 五
角谷 應助 五 最田 五 七
鈴木 榮吉 五 鈴木 豐吉 五
鈴木 初太郎 五 鈴木 角太郎 五
鈴木 潔 五 鈴木 重孟 五
鈴木 文吉 五 鈴木 重行 五
鈴木 利貞 五 鈴木 信之 五
鈴木 安次 五 鈴木 重定 五
鈴木 安次 五 鈴木 喜平次 五

編輯後記

卒業生を送り、新入生を迎え終つて校内の氣分も先づ落付いた此の頃、上野の櫻はすつかり散り果て、山は一日と緑の若葉に燃えて行きます。先輩を送つた後は何とはなく物淋しい氣分に包まれて居りましたが、やがて新しい希望に生々とした新入生諸君に接し、一段と晴れやかに今迄の氣分は一掃された様です。新學期に當り緊張したこの氣持を何時迄續けて進み度いと思ひます。(深間内)

獨逸メルク社嚴撰
生藥標本 二七七種

○硝子筒入セルロイド蓋付
大型 高サ 十吋 標三時四分ノ一……一〇五種
中型 同 七吋 同二時二分ノ一……七八種
小型 同 五吋 同一時二分ノ一……九四種

○特價 四百圓也
○新鮮にして個有の香氣及色相を保存す
○標本とし將又含有性分研究用として適切なり

化學問屋 小島義忠商店
電話日本橋(24) 一七五六番
一七五七番

○現品弊店に陳列してありますから御覽下さい
○品種明細書入用の方は御申帳下さい

東京藥學 御制服御用達
專門學校

中野屋洋服店
下谷區谷中町五番地
東京藥學專門學校前

理化學分析 一式
製煉用機械

加藤貫々舍
本店 下谷區上野花園町十三
出張所 東京藥學專門學校内



鎮咳と 祛痰に

プロチン

肺結核、氣管枝炎、肺炎、感冒、百日咳並に其他呼吸器
病に基因する咳嗽喀痰ある場合に盛に賞用せらる。

醫學博士吉村喜作先生は
本劑を多數の患者に適用し、其の治
驗を實業醫報第二年第十四號に公表
せらる、其要に曰く……

- (1) 本劑は祛痰と同時に鎮咳劑として顯著確實なる效力を有す……
- (2) 本劑は従来の祛痰劑に比し次の如き數多の利越せる特徴を有す……
- (イ) 本劑は従来の祛痰劑の如く粘膜を刺激して分泌を促進乃

至増多せしむる如き不快なる作用を有せざるのみならず、却て之を抑制乃至滅し、同時に粘液を溶解する作用を有し、その咯出を容易ならしむ……

- (ロ) 本劑は殆ど無味若くは僅微の苦味を有するものにして、在來の祛痰劑の如き不快の味を有せざるを以て頗る服用し易し……
- (ハ) 従来の祛痰劑に於ける大なる缺點たりし腸胃障礙、就中食欲不振、嘔吐、嘔吐等の忌むべき副作用を有せざるのみならず、

却て食欲を増進する傾向あり……

- (ニ) 祛痰と同時に鎮咳の作用を有するは本劑の特長にして、従来の祛痰劑應用の際の如く、麻痺劑併用するの必要なく、若し之ある場合と雖も適に少量にて足る……

- (3) 本劑は以上の諸點の外、何等忌むべき、若くは、危險なる副作用を有せざるを以て、使用上極めて安全にして最も實用的なり。云々……

(實驗報告摘録集代進呈す)

粉末、錠劑、液劑、の三種あり、 各地藥舖にて販賣す

本 社 三共株式會社 出張所
東京室町 大阪・臺北・紐育